

## 教育プログラムの概要及び採択理由

機 関 名	愛 媛 大 学	申請分野(系)	医 療 系
教育プログラムの名称	地域・大学一体型先導的研究者育成システム		
主たる研究科・専攻名	医学系研究科・医学専攻		
(他の大学と共同申請する場合の大学名、研究科専攻名)			
取組実施担当者	(代表者) 大 西 丘 倫		

**背景 ①** 地方圏では、大学病院を含め、高度先端医療を担う**医師不足**は極めて深刻であり、医療体制が崩壊しつつある。このことは、先端医科学を探究する**医学研究者とその志望者の顕著な減少**も招いており、ひいては我が国における**医学・生命科学研究水準の低下**や**医学教育の劣化**をきたすことが必至の状況である。このような背景から、特に地方の医科系大学院では、**先端研究と地域医療とを支えうる医療人・研究者の養成**が喫緊の課題であり、それを実現するための大学院教育のあり方が模索されている。

**背景 ②** 徒弟制度を内包し続ける医学部独特の講座制(医局制)は、診療領域に限定的な研究を常態化させ、横断的・学際的研究を妨げる障壁となってきた。そのため、医学系大学院教育共通の課題としてラボ・ボーダレスが推進され、本専攻でも積極的な取組がなされてきたが、**医学・医療分野は日常診療や研究成果の社会還元において直接的に社会と接する学問領域**であることから、その教育においては**地域社会を広義のキャンパスとして捉え、大学院と地域とが研究・医療面で相互に連携しつつ人材養成を進めるウォールフリー**でなければならない。**ラボ・ボーダレスを超えたウォールフリーは、疲弊する地域医療と先端研究とを両立させる解決手段**となり、若き大学院生の情熱を支え、夢を実現する教育システムとなる。

**背景 ③** 愛媛大学では、地方大学であることを利点として**地元自治体と包括的な研究協力協定**(松山市・東温市)を締結するとともに、愛媛県の寄附により**地域医療学講座と地域サテライトセンター**(西予市・久万高原町)を開設(西予市(平成21年1月)・久万高原町(平成21年5月))するなど、医療・研究における**地域連携体制を整えてきた**。加えて、平成21年4月にゲノム情報とタンパク質情報とを一体化した**プロテオ医学研究拠点**となる「**プロテオ医学研究センター**」を開設し、地域から学び地域に還元できる**先端的・先導的研究者を育成する体勢を整えた**。

**目的** 若き大学院生が、数多くの教員や友人から薫陶を受けながら大学内外を自由に走り回れるウォールフリー教育研究システムを確立し、学際性と人間味溢れる魅力的な大学院環境と活力ある研究体制とを構築することで、**地域医療と先端研究とを担う医療人・研究者を育成し、もって我が国の医学・医療の未来を拓く人材を養成**すること。

**プログラム** ウォールフリー教育を推進する目的で、以下のような特徴をもったプログラムを構築する。  
**コース制教育** 所属講座や基礎/臨床の区別とは無関係に教員と大学院生を希望の10コース(感染・炎症・免疫学、ゲノム医科学、再生医学、細胞増殖分化制御、社会医学、神経生物学、心血管呼吸生物学、消化器・代謝生物学、腫瘍生物学、臨床腫瘍学)に配置する新しい教育システム(コース制)を導入し、**基礎－臨床を融合した幅広い教育体制**で大学院教育を進める。

**複数指導体制** 主指導教員に加え、副指導教員、選択実習指導教員を自由に選択できるシステムとすることで、多彩な教員との交流機会を提供し、コース制でありながら**高い領域横断性**を実現する。

**地域連携** 地域の医療・保健現場を広義のキャンパスと準えることで、地域に学び、地域から最先端の**生命科学・臨床医学研究成果を発信し、その成果を地域に還元する能力を養う**。愛媛県寄附講座として開設した**地域医療学講座と地域サテライトセンター**とが教育の中核を担う。

**プロテオ医学研究センター** 愛媛大学の**先端生命科学研究拠点であるプロテオ医学研究センター**(平成21年度開設)との連携により、**先端的な研究手技と領域横断的な幅広い知識、ならびに高いリサーチマインドと情熱とを養う教育プログラム**を提供する。

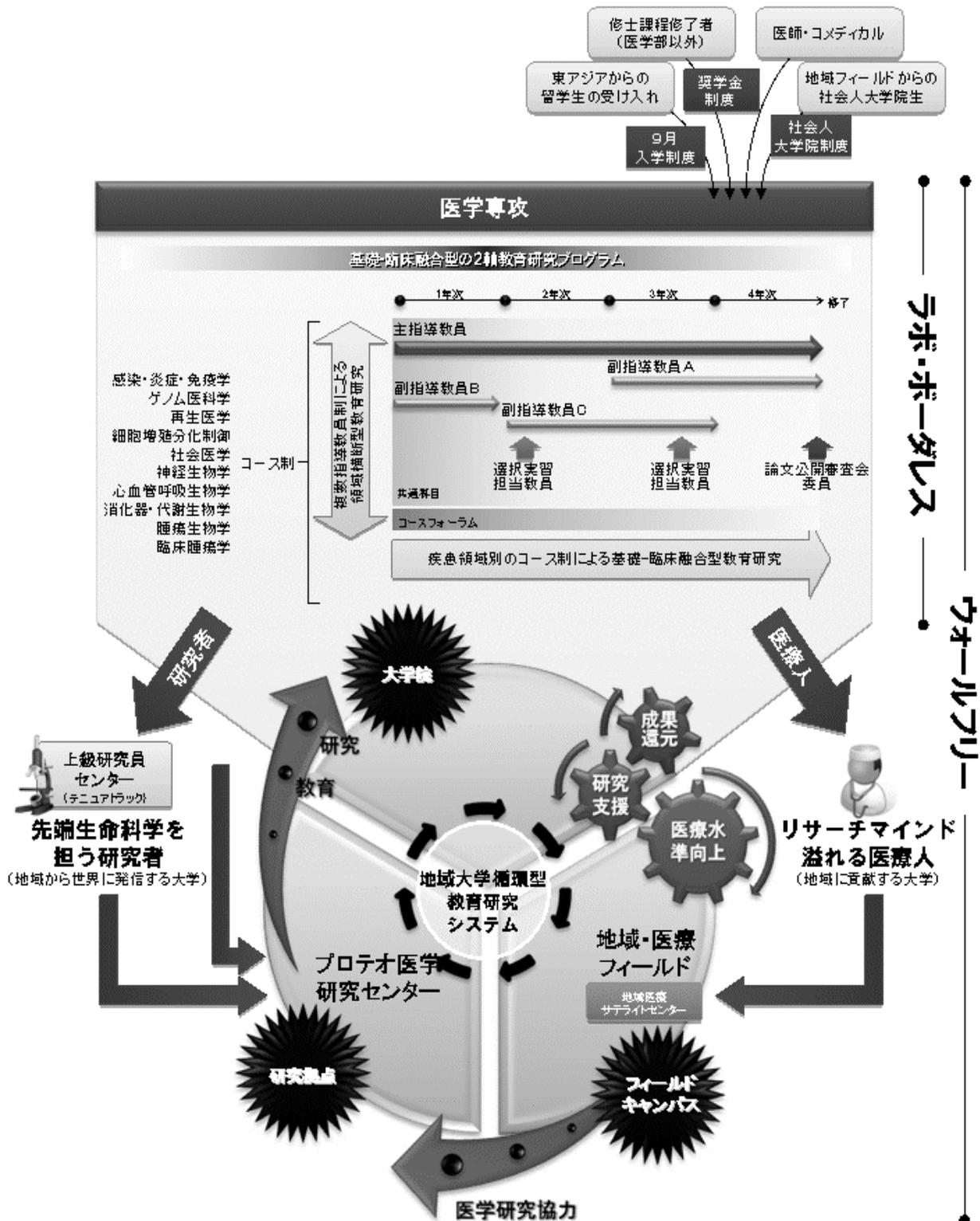
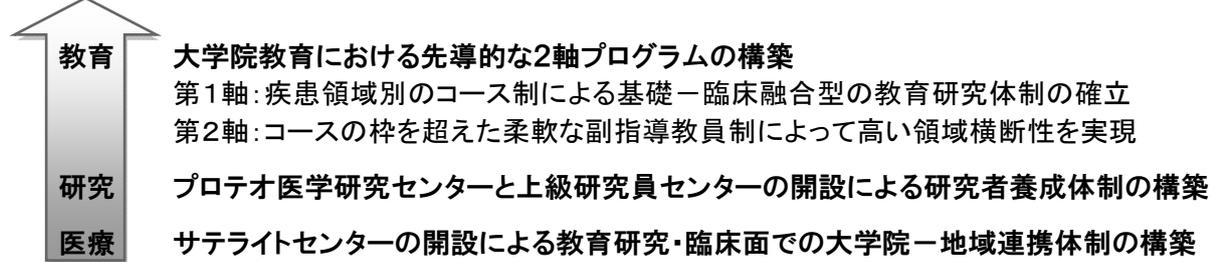
**選択実習** 個々の大学院生の必要性に対応する、**オーダーメイドな実習教育制度**(平成21年度開始)。

**横方向連携** 大学院生同士の交流による新しい学際領域の形成と、楽しく充実した大学院生活の実現を目指した同級生が一堂に集まる**研究発表会の開催や研修合宿の実施**。

**波及効果** ウォールフリー環境で高度な教育プログラムを提供する本取組からは、大学院教育の実質化に対して**①高い研究能力を備え社会との接点を見据えることができる広い視野を兼ね備えた医療人・研究者が養成される**、**②地域連携を軸として領域縦断性と横断性とを確保したコースワークが大学院教育の新しいモデルとなる**、**③大学院志望者を増やし、医学・生命科学の未来を拓く若手研究者・医学教育者が養成される**、**④垣根のない教育研究体制から新たな学際領域が開拓されると同時に、当該領域を担う研究者が育成される**、**⑤高度な民産官学連携に基づく実効性・実質性の高いウォールフリーが、「社会と育む大学院教育」として今後の医科学系大学院教育の先導的モデルとなる**ことが期待される。

履修プロセスの概念図 (履修指導及び研究指導のプロセスについて全体像と特徴がわかるように図示してください。)

### 完成されたウォールフリー教育研究システムによる先導的研究者の育成



<採択理由>

大学院教育の実質化の面では、「幅広い専門的知識を備え、創造的研究を担うことのできる研究者や地域医療に貢献する臨床医を養成する」という人材養成目的が明確に掲げられており、それに沿って、大学と民、産、官を一体化して組織的、意欲的に大学院教育の改善に取り組んでいることについては評価できる。

教育プログラムについては、大学内の基礎と臨床のみならず、大学院教育、先端医科学研究、地域医療をウォールフリーに実践しようとする取組は意欲的であり、高く評価できる。特に、コース制と複数指導教員制による2軸教育プログラムによる教育研究成果は期待される。ただし、講座制とコース制の整合性について明確にする必要がある。